

新座市は歴史の古い町である。柳瀬川と黒目川の沖積低地とそれらに挟まれた野火止台地からなっており、既に旧石器時代の遺跡でもある黒目川流域の市場坂遺跡を始めとして、100 箇所を超す遺跡がある。

天平宝字 2 年(758)に武蔵国に設けられた新羅郡に組み込まれ、新倉郡、新座郡と郡名が変遷するもその主要な地域として発展してきた。当初は黒目川流域片山郷を地盤とする片山氏が、後には大和田郷域も発展を遂げ始めた。

市内の歴史的文化財はまず第一に平林寺に関連するもの、第二に法台寺に関するものと言えようか。有形文化財や記念物で国又は県指定となっているのは、平林寺の総門等の建造物・古文書・境内林や伊豆殿夫妻の墓等と、法台寺の彫刻・石塔婆等の考古資料であり、他には僅かに野火止用水関連の古文書が指定されているのみである。



(埼玉県指定文化財：法台寺板石塔婆)(写真撮影 3 日山下)

① 日本人の宗教観？

法台寺は、今は、浄土宗の寺である。法台寺の縁起を迎れば、源頼朝存命の治承年間に、勅許により館（清浄殿）が建てられ、後に久米御前(後述)の菩提を弔うために、寺院化された。宗派があったのかどうかは解らなかった。その後、時宗の祖、一遍上人との運命の出会いを経て他阿真教上人は、その高弟となり、全国遊行(時宗は諸国を遊行して布教に努めた。)時に、当寺に立ち寄り、当寺を時宗の道場とした。他阿上人の直筆であろうといわれる塔婆「南無阿弥陀仏」の 6 字名号を記した石碑(県指定文化財)が残されており、時宗のお寺であったことを伺わせる。他阿真教上人坐像も同じく県指定文化財である。ところが、14 世の頃に得度した芝増上寺の中興開山となった観智国師の頃に浄土宗に改宗された。不明から時宗そして浄土宗へと法台寺は改宗を重ねている。一神教の未だに唯我独尊を教義とする宗教観を持つ他国の宗教観に比して、この柔軟性(?)はどうだろうか。森羅万象を神とし外来宗教ですら日本人に合うように変化をさせる日本人の面目躍如というべきか。

② 字義通り(?)の寺子屋

新座で一番古い小学校は明治 7 年(1874)市内馬場の法台寺に開校された黒目学校であり、今の片山小学校の前身でもある。新座の小学校は片山小学校からそれぞれ分離・独立していった。

江戸時代末期には、日本各地に寺子屋が開設され、庶民の子供達に「読み・書き・そろばん」を教えるようになった。この様な庶民の向学心・向上心が明治期の日本の興隆の基となり、今日の基盤となっている。新座市内には、記録によれば、寺子屋が二つあ

って、一つは画期的な事だが、農民が開設した寺子屋であり、他の一つが、法台寺に開設された字義通りの寺子屋で、住職が師匠であった。筆子と呼ばれる生徒達が、師匠の遺徳を偲び称える為に「筆子塚」を建立し、今に残っている。

③ 宝七福神と七福神

全国には七福神が多数祭られているという。ある物好きな人によると優に300に近いとも。琵琶好きな盲目の男の子は長じて杉山検校と呼ばれた。法台寺の住職を深く尊敬していた検校が近くの沢で弁財天から琵琶の秘伝を教わった。その時の掛け軸は今もお寺に秘蔵されている。その沢を妙音沢と称し、その弁才天を頂く宝七福神が祀られている。何故か亀に乗った七福神を廻しながら願いを掛ける「廻し七福神」がある。

④ 鎌倉武士の後胤

新座の姓で特に目に付くのが並木さんである。小生の住んでいる畑中周辺だけなのかどうか解らないが・・・この並木さんだが、どうやら鎌倉武士の後胤だそうだ。鎌倉幕府3代の悲劇の将軍、源実朝の妾(側室)に久米御前と呼ばれる千葉常胤の娘であった女性が居る。源頼朝存命の治承4(1180)年、勅許に依り「館」が建てられ、その館は「清浄殿」と名づけられた。久米御前はその後尼僧となり、この清浄殿を住まいとして隠遁生活を送った。御前逝去後、執権職北條時宗の時、即ち文永3(1266)年仲秋、宗尊親王の命に依り、源実朝の御台所久米御前の菩提を弔うためにこの、清浄殿を「廣澤院寶臺寺」とした。寺院として建立したのである。久米御前に付き従ってきたお付や家来、鎌倉武士も同時にこの地に土着した。法台寺はこれら一族の菩提を弔っており、並木をはじめとする姓は当時付き従ってきた鎌倉武士の後胤である。

(参考：百科事典、新座市のHP等をはじめとする各種のHP)